

ほっけもん

299 診察



病限の診察室



大崎短歌会

兼題「自由」

夫逝きし年に生まれし曾孫の

難関突破希望の大学え

軒端より遠い国見を見渡せば

峰に漂う淡い群雲

爺と今お茶飲む時刻「朝です」と

病室に起こされ今日の始まり

ムスカリの花紫に早咲きて

母の羽織のひも重ねおり

午前五時位牌に向きて念佛十回

お彼岸の墓に参りしつもり

ウグイスの鳴く音に覚めし今朝の空

くもり日なれど雨は降らぬと

穂園芳江

実吉安仁

本後淑子

山下海征

原田葉子

坂元つる子

一人居の母の菜園日向ぼこ

さきがけの春フキノトウ告ぐ

教科書を戦後黒塗りす

頼りなし歴史の学び手さぐりなりし

薩摩郷句

兼題「愛情」

亭主の小言 愛情ち思つ 聞つ流げつ

(唱) 物は考げよ 悪い人じゃ無し

道楽息子け 過ぎた愛情で 大て借金

(唱) 可愛がい過ぎつ こげな事ちなつ

馬場みさ

上南紀子

上窪小絵

北村虎王

パタパタち 爺婆ん愛情が 空れ泳つ

(唱) 鯉職ゆ見上げつ 嬉しか爺婆

諸木小春

三度目で 愛情が切れた 浮気亭主

(唱) こんど言ゆ今度だ 許しがならん

上村牛歩

反抗期 親ん愛情が 喧しゆし

(唱) 俺に構もなち 叫れちよい息子

西ノ園ひらり

結婚式く挙げつ 五十年今も 深け愛情

(唱) 丸で新婚 夫婦ん鏡

長重りりー

プーチンに 愛情も無とか 酷で仕打

(唱) 血も涙も 無とかプーチン

満石うらら

後継いに 掛けた愛情が 素駄いなつ

(唱) 大事じし過ぎたか さつさつ辞めつ

藤元鬼瓦

愛情じやろ 腹痛て女房い 心配を焼つ

(唱) 早よ薬ゆ飲ん 横いなれ言つ

二見愚楽満

貧じゃばつ 愛情一杯で 円満る暮れつ

(唱) 笑れが舞うちよい 楽しか家族

遠矢耐多